



第2会場 ● 2F 自由研修室

■ 司 会 / 續 洋子 NPO法人 なはまちづくりネット

森田 明敬 福岡県教育庁福岡教育事務所 社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 アウトリーチ型「放課後の達人」広域プロジェクト ～放課後子ども教室の充実のためのアドバイザー派遣事業～

13:35~14:05

緒方 尚哉(熊本県) 熊本県教育庁教育総務局 社会教育課 社会教育主事

「放課後学習向上アドバイザー」(別名「放課後の達人」)は、放課後子ども教室の活動プログラムを支援し、各自治体の地域指導者に指導方法等の助言を行うため県教委が委嘱した教育の専門家集団である。本事業は県下市町村の要請に応じて「放課後の達人」を派遣し、①モデル的な子どもの体験指導、②効果的な指導プログラムの紹介と助言、③指導方法向上のための研修・助言を行って来た。平成23年度の派遣先は、放課後子ども教室48か所、児童クラブ6か所で、のべ158回の派遣を実施した。その結果は教室やクラブから高い評価を得ている。指導者相互の連絡・プログラム開発の協議は「放課後の達人連絡協議会」で行い、「放課後子どもプラン研修会」の講師としても活躍した。

2 地域教育力の向上を目指し、学校と地域を繋ぐPTAの工夫と挑戦

14:10~14:40

山本 美咲(大分県別府市) 別府市立朝日中学校PTA 会長

朝中PTAは「開かれた学校」を目指し、生徒の学習・体験活動を支援し、それらの活動を通して地域の「絆」を強化できることに気付いた。学校は地域からの支援を希望し、行政は「地域教育力」の活性化を目指し、共に「思い」の一致できるところがあることも分かった。「朝中を語ろう会」は保護者相互の情報交換と親睦を目標に始めたが、地域に拡大して「絆プロジェクト」に成長した。結果的に、学校支援も充実し、環境整備、防犯・夜間パトロール、「学力向上対策費」の設置や学習指導ボランティアとしての大学生の投入、「子どもふるさと体験学inくにさき」への参加や「朝日村フェスタ2011」の展開に繋がっていった。

ティータイム

14:40~15:05

3 「無縁社会」を「ご近所福祉」が突破する ～「いつでも、だれでも集える場」を提供するiikotoメイト～

15:05~15:35

藤本 詔子(山口県宇部市) ご近所福祉の「iikotoメイト」 事務局長

「大正琴」のグループ活動20年の仲間の絆と経験を生かし、宇部市の「ご近所福祉」推進事業と協働した「認知症予防プログラム」を基軸とした事業である。徒歩で集まれる範囲を対象とし、代表者の自宅を改装・開放して毎月20回にも及ぶ集会を実施して多様なプログラムを展開している。行政補助金の終結を前提として自らの活動で資金を捻出する工夫も実り、高齢者の活力を引き出すことに成功している。成果は高齢者の活動を通じた仲間づくり、ご近所社交、連帯感の復活など既存の町内会などがほとんど実現できていない「無縁社会」を突破する第1次生活圏レベルの小規模・小単位・顔の見える地域社会の福祉事業である。

4 ふるさとの再生を目指す住民自治・活性化機構の組織と戦略 ～出雲街道の今昔に学び、二部谷地域の活力を生み出す～

15:40~16:10

田邊 公教(鳥取県伯耆町) 二部地区活性化推進機構 会長

当地区は総人口1260人、高齢化率39.3%、限界集落の実態を示し始めている。自助・共助・公助を組み合わせた住民活動の先進地に倣って、平成11年に「二部地区活性化推進機構」を設置した。活性化実践に関わる部会は「総務」、「産業振興」、「住み良い環境」、「趣味と生きがい」、「健康スポーツ」、「福祉ボランティア」、「ファンクラブ(ふるさと支援・ふるさと小包発送)」の7つである。

伯耆町からは「企画課」から1名の職員が「二部公民館」に派遣されている。住民の意向をアンケート調査で読み取り、景観植樹、地区運動会や祭りの実施、県や町と連携した「集落の再編」、「特区の導入」、閉校施設の活用、農村加工施設の整備などを進めて来た。また、住民意識の高揚に資するため郷土史や写真集、地元識者による「出雲街道今昔物語」を刊行した。しかし、現実を突破する最大の課題は収入に結びつく地域産業の創出であり、集落営農を導入した地域の再生にかかっていると考えている。